

株式会社デジタルガレージ
第11期中間決算説明会

2006.02.24



第11期中間決算報告



<旧セグメント>

ソリューション事業

- ・(株)デジタルガレージ
- ・アイベックス・アンド・リムズ(株)
- ・(株)クリエイティブガレージ

ポータル/ゲートウェイ事業

- ・(株)カカコム
- ・(株)イーコンテクト
- ・(株)テクノラティジャパン
- ・フォートラベル(株)

モバイル事業

- ・(株)DGモバイル

VTC事業

- (ベンチャー・トランスフォーメーション
・キャピタル)

*「ポータル/ゲートウェイ事業」を「ポータル/ブログ事業」と名称変更し、「モバイル事業」を統合

*「ポータル/ゲートウェイ事業」に含めていた決済・物流事業、外国為替保証金取引等を「ファイナンス事業」として新たに独立した事業区分へ

* VTC事業(ベンチャー企業への投資・育成)を「インキュベーション事業」として新たに独立した事業区分へ

<新セグメント>

純粋持ち株会社

デジタルガレージ

ソリューション事業

- ・(株)DGソリューションズ
- ・アイベックス・アンド・リムズ(株)
- ・(株)クリエイティブガレージ

ポータル/ブログ事業

- ・(株)カカコム
- ・フォートラベル(株)
- ・(株)テクノラティジャパン
- ・(株)WEB2.0
- ・(株)DGモバイル

インキュベーション事業

- ・(株)DGインキュベーション
- ・(株)DG&パートナーズ
- ・Joi Ito's Lab

ファイナンス事業

- ・(株)イーコンテクト
- ・(株)カカコム・フィナンシャル
- ・(株)カカコム・インシュアランス

平成18年1月より純粹持ち株会社に移行

- ・ソリューション事業を、(株)DGソリューションズに新設分割
- ・インキュベーション事業を、(株)DGインキュベーションに吸収分割

ソリューション事業

- ・ 3月: (株)DGメディアマーケティングを(株)カカコム、フォートラベル(株)等と設立(予定)

ポータル/ブログ事業

- ・11月: (株)WEB2.0を、ぴあ(株)、(株)カカコムと設立

インキュベーション事業

- ・ 7月: (株)DGインキュベーションを100%子会社として設立
- ・ 9月: (株)DGインキュベーション/日本アジア投資(株)と(株)DG&パートナーズを設立
- ・ 1月: Web3.0の研究開発として、共同創業者の伊藤穰一と「Joi Ito's Lab」を開始

ファイナンス事業

- ・12月: (株)カカコム/(株)カカコムフィナンシャルを100%子会社として設立

その他

- ・ 1月: (株)DGアセットマネジメントを100%子会社として設立

(単位:百万円)

	2005年6月期 (中間期)	2006年6月期 (中間期)	前年同期比 (増加率)	2005年6月期 (前期通期)
売上高	2,948	4,296	1,348 (45%)	7,846
売上総利益	1,222	1,774	552 (45%)	3,182
(売上高総利益率)	(41%)	(41%)		(40%)
販売管理費	1,291	1,934	642 (49%)	2,739
営業利益	△69	△159	△90 (-)	442
経常利益	△242	△249	△7 (-)	108
当期利益	△305	△433	△128 (-)	633



第11期中間期サマリー

【売上高】

アイベックス・アンド・リムズ(株)のフル連結効果による増加	1,268百万円
(株)イーコンテキストにおける決済サービスの伸長による増加	516百万円

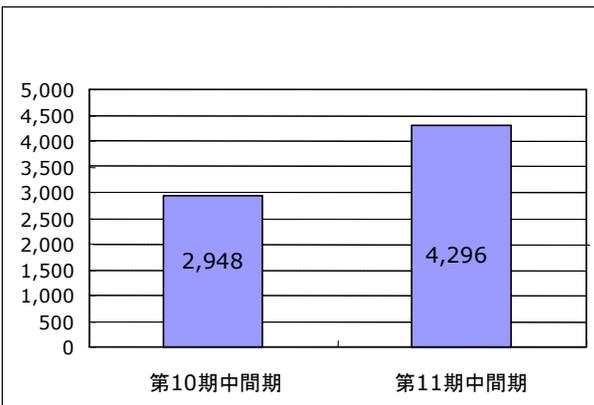
【販売管理費】

新規会社設立による増加	187百万円
(株)カカコム事業拡大に伴う増加	263百万円
暖簾代償却費の増加	184百万円

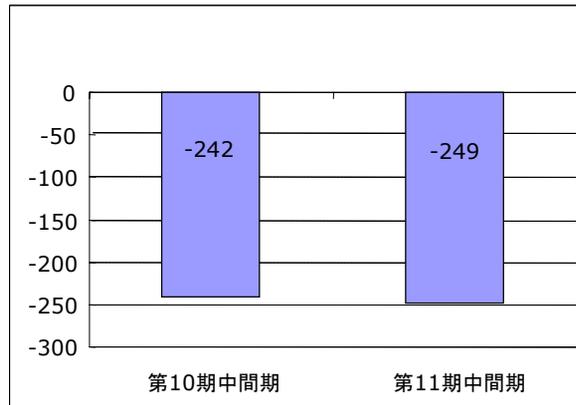
【中間純利益】

社債消却益	△102百万円
-------	---------

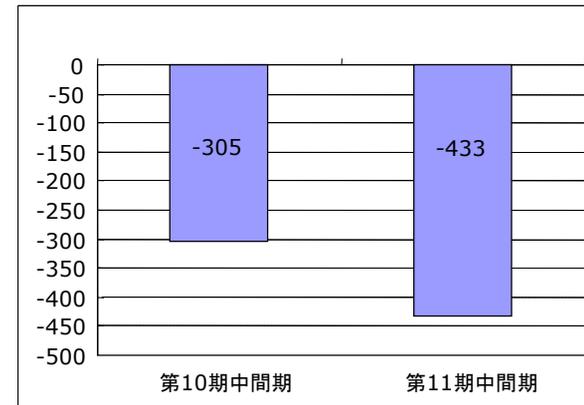
<売上高>



<経常利益>



<中間純利益> (単位:百万円)



事業セグメント別サマリー

◆ソリューション事業

売上高は大幅増加したが、のれん代の償却負担増により営業利益は小幅改善

◆ポータル／ブログ事業

不正アクセスによるサイト一時停止を乗り越え、売上拡大。

不正アクセス対策費用計上、会社設立等による初期投資により、営業利益は減少

◆ファイナンス事業

売上高、営業利益ともに、(株)イーコンテクストの伸長により、大幅増加

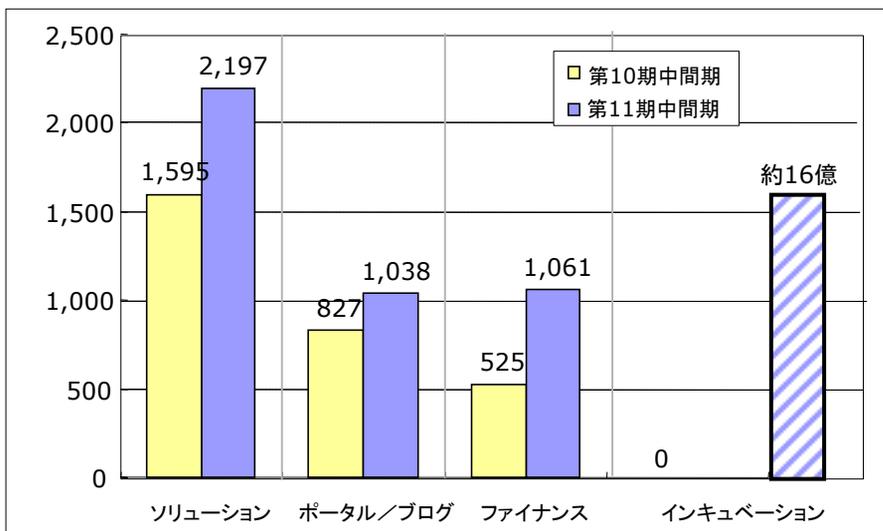
◆インキュベーション事業

新しい事業セグメントとして、会社等の設立による先行投資費用発生

(株)ジャストプランニング株式の譲渡により、約16億円の売上(平成18年1月)

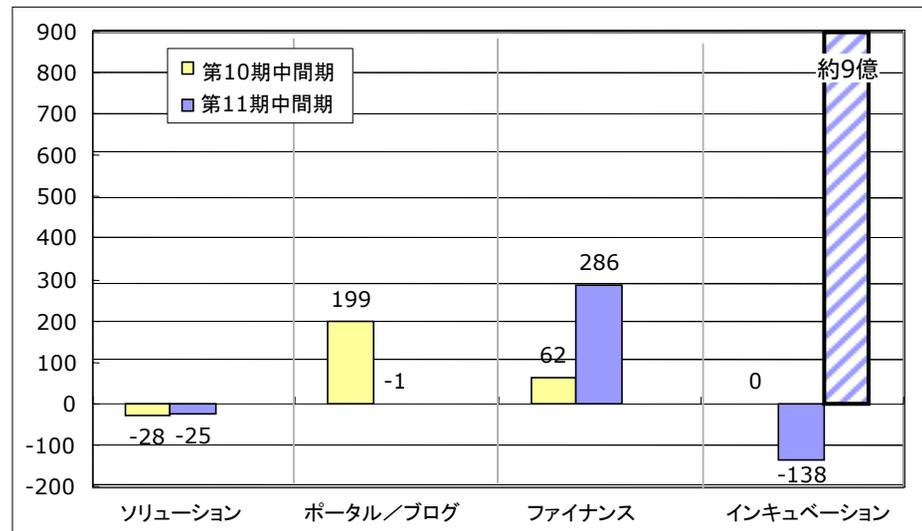
<売上高>

(単位:百万円)



<営業利益>

(単位:百万円)

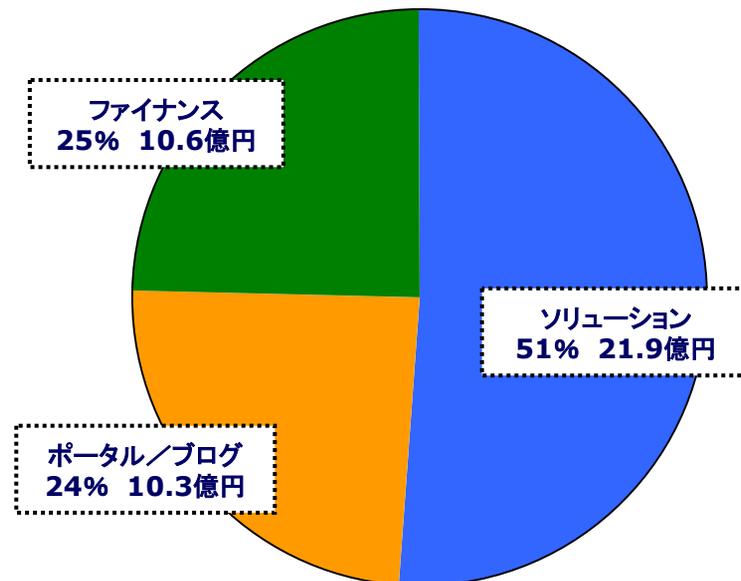
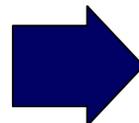
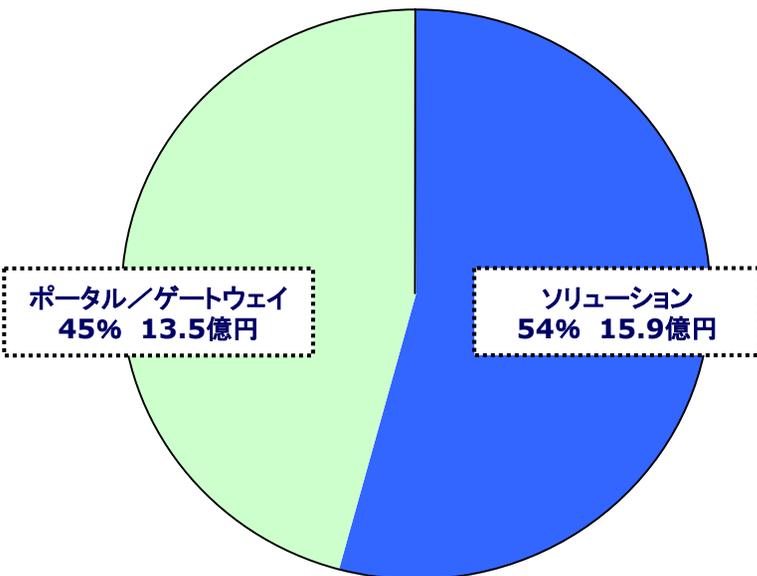


*インキュベーション事業は2006年1月に一部株式譲渡による売上高・営業利益を加算

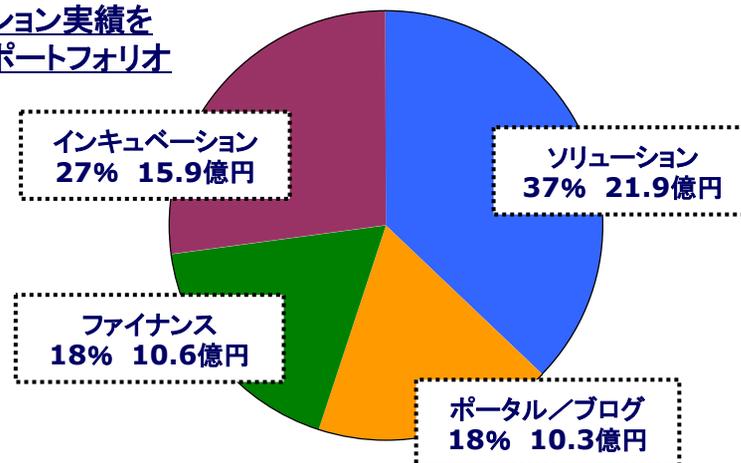
事業セグメント別売上高構成

平成17年6月中間期

平成18年6月中間期



インキュベーション実績を含めた場合のポートフォリオ



※インキュベーションに関しては、1月の実績を採用しています。
それ以外の事業セグメントについては、2005年6月中間実績数値を採用しています。



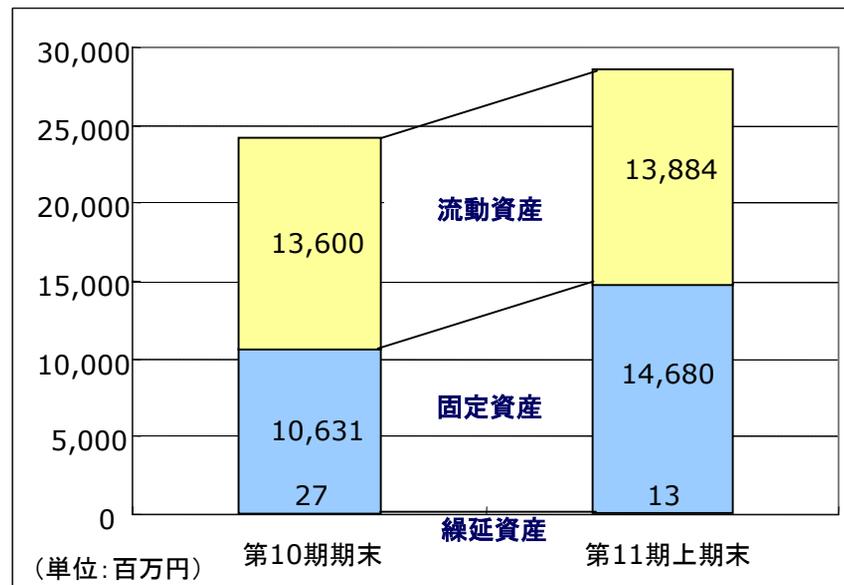
(単位:百万円)

	2005年6月期 (通期)	2006年6月期 (中間期)	増減	増減率
流動資産	13,600	13,884	283	2%
固定資産	10,631	14,680	4,049	38%
繰延資産	27	13	△13	△50%
資産合計	24,259	28,578	4,319	17%
流動負債	14,379	16,334	1,954	13%
固定負債	549	1,254	705	128%
少数株主持分	2,646	3,139	493	18%
株主資本	6,683	7,849	1,166	17%
負債／少数株主持分 ／株主資本合計	24,259	28,578	4,319	17%

資産の部サマリー

(固定資産)

グループ会社のオフィスビル統合に向けた匿名組合出資及び保有上場有価証券の時価増加により、大幅増加。



負債・少数株主持分・資本の部サマリー

(負債)

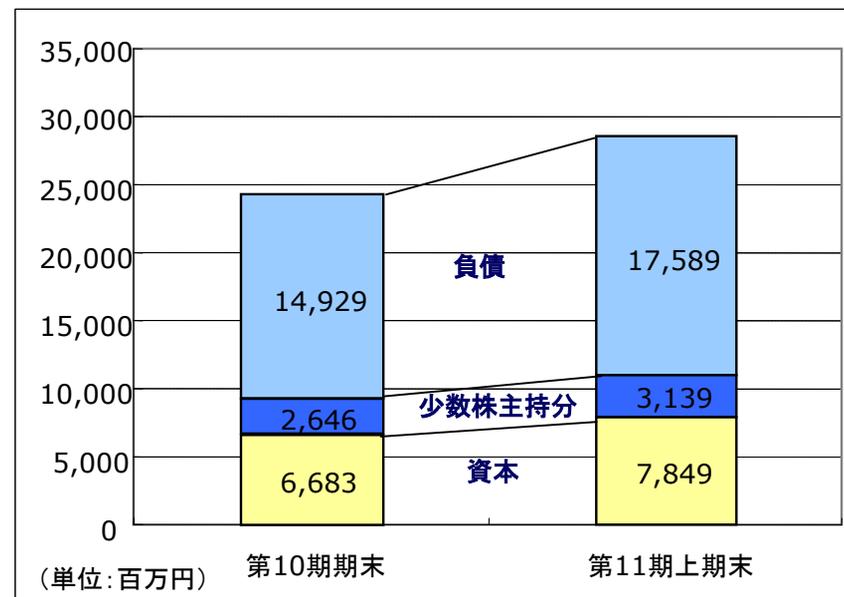
貸付有価証券に係る受入保証金の増加。
保有上場有価証券の時価上昇による繰延税金負債増加。

(少数株主持分)

新会社設立と子会社の順調な成長を反映。

(資本)

保有上場有価証券の時価上昇による評価差額金上昇。



(単位:百万円)

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同 等物期末残高
第10期中間期	1,474	529	△2	5,371
第11期中間期	1,072	△1,026	2,170	8,288

第11期中間期サマリー

<営業活動によるキャッシュ・フロー>
 連結子会社の引き続き順調な伸長

<投資活動によるキャッシュ・フロー>
 グループ会社オフィスビル統合に向けた匿名組合出資
 (※匿名組合員の地位譲渡も検討)

<財務活動によるキャッシュ・フロー>
 資金調達に伴う預り金の受入

第11期上期の事業ハイライト



<新中期事業計画 セグメント>

I

ソリューション事業セグメント

ITシステム設計・構築、マーケティング活動の企画・設計・実施

II

ポータル/ブログ事業セグメント

『価格.com』、CGM、モバイル、Blogのポータル事業

III

インキュベーション事業セグメント

ネット関連企業の投資・育成(インキュベーション事業)

IV

ファイナンス事業セグメント

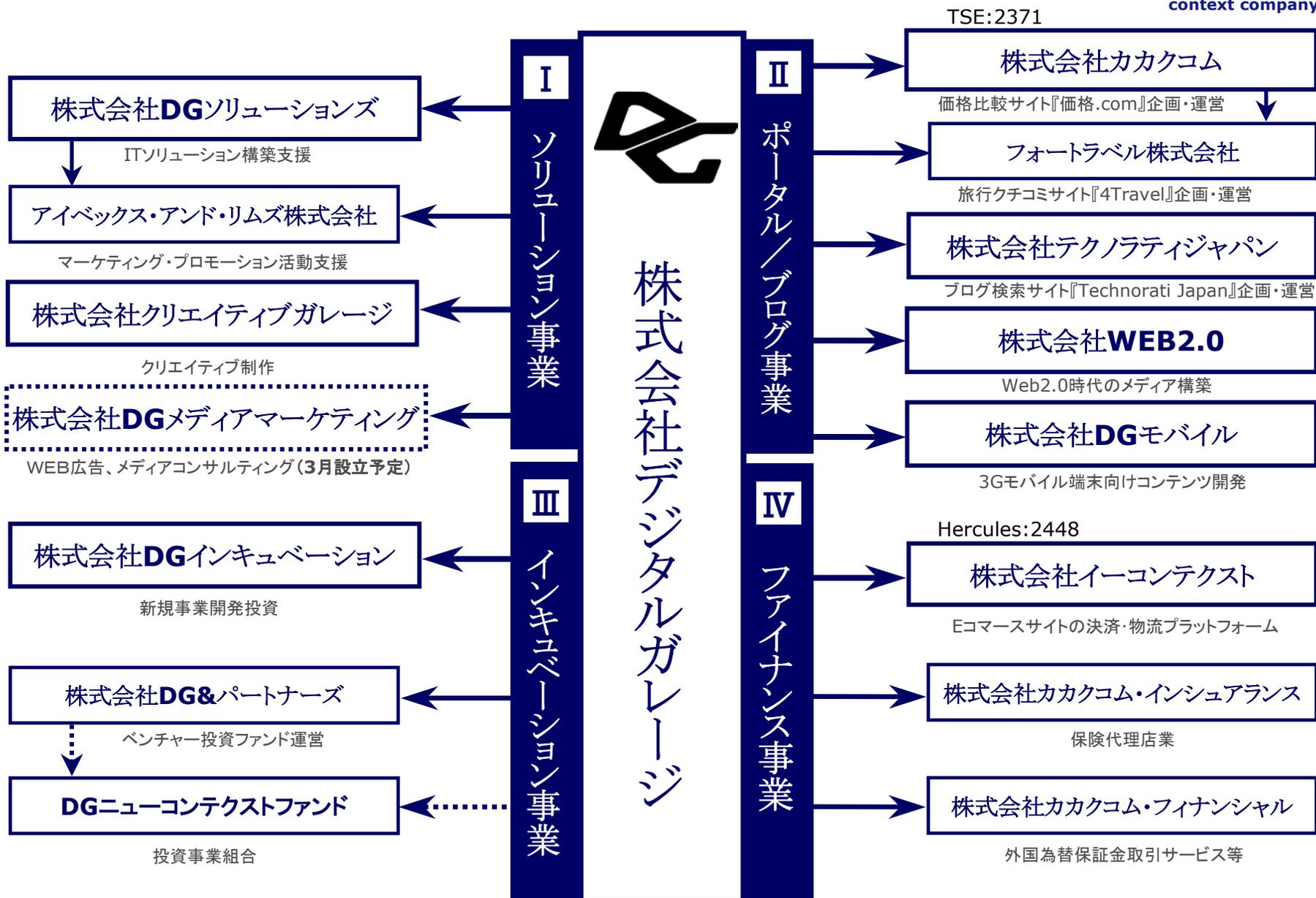
決済、為替、保険等のインターネットを利用した金融関連業務



純粋持ち株会社へ移行後の新グループフォーメーションチャート



context company



Jasdaq:4819



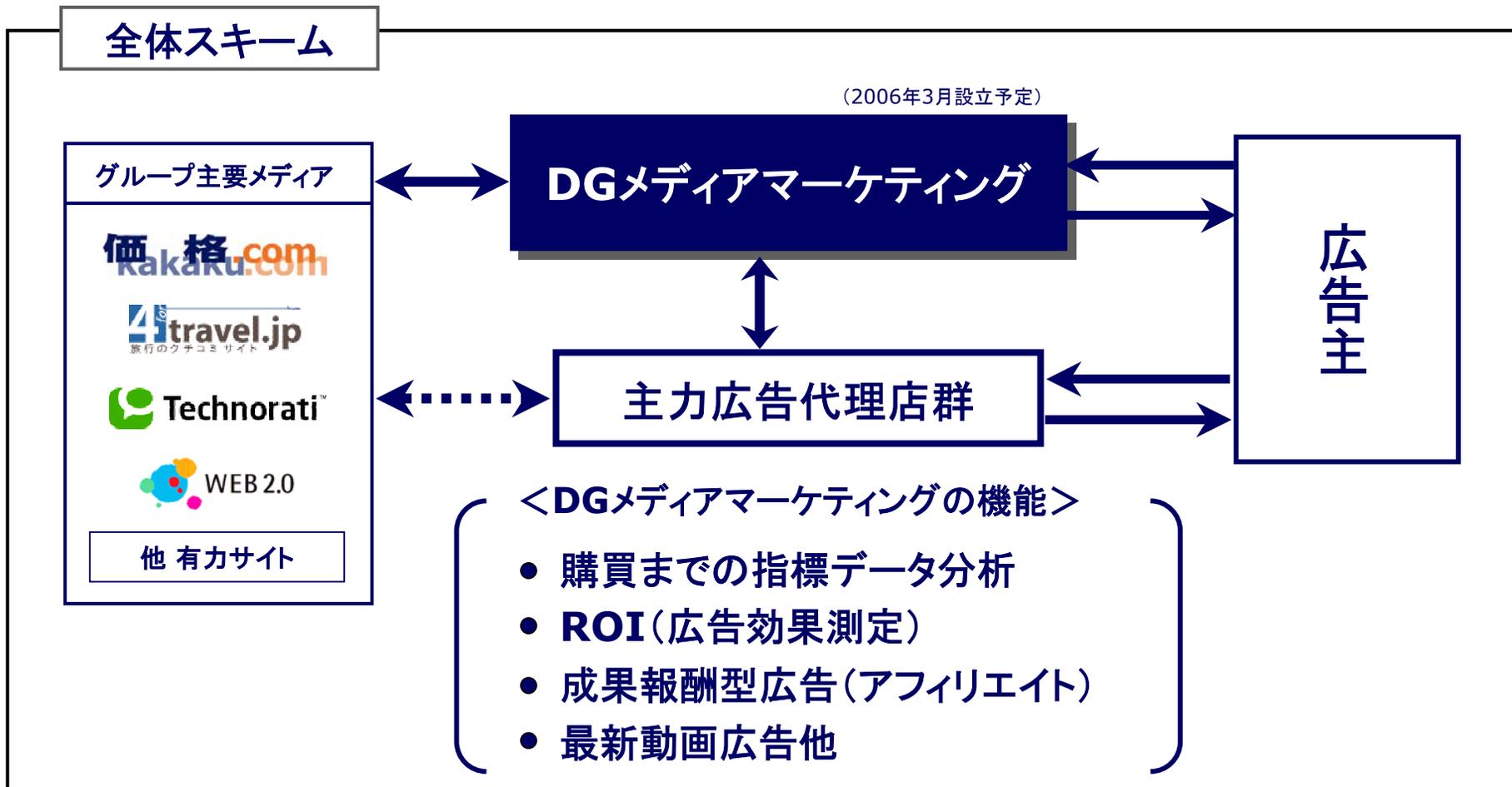
＜セグメント事業戦略＞

DGのソリューション事業を分社化した、(株)DGソリューションズを中間持ち株会社と位置づけ、**WEB SYSTEM・MEDIA・MARKETING PROMOTION**に重点を置いた、グループ事業会社間でのIT×MTソリューションの融合化を推進する

DGのソリューション事業の分社化による、専門性と創造性・客観性の追及

- ① (株)DGソリューションズとアイベックス・アンド・リムズ(株)との連動により、『シームレスなIT×MTソリューションサービス』を提供し、受託型ビジネスを強化
- ② 受託型ビジネスの強化に加えた、新たな『**AD Webビジネス**』の開始
➡ 『プロモーションポータル/PromotionPartner.JP』の開始
- ③ グループ戦略事業『**ブログ事業**』のコンサルティングビジネスのゲートウェイ機能・グループメディア価値の最大化に向けて、複合的な『**メディアレップ事業**』
➡ 2006年3月に(株)DGメディアマーケティングを設立予定

**DG・カカコム・4Travelの3社で、グループメディアの広告活性化の為の
新広告事業会社設立(グループの広告・販促ノウハウの集約化)**



＜セグメント事業戦略＞

新たな伸張が期待される戦略事業＝ブログ事業の追加とアクセスチャネルの
多重化＝モバイル展開によるグループの「対C向けビジネス」の強化・拡大

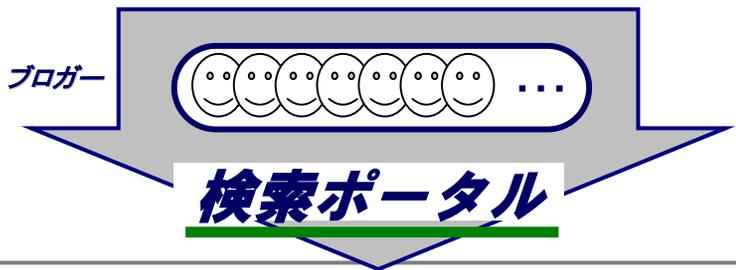
第二成長軌道にはいったカカクコムを核に更なる拡大を目指す

- ① 国内No.1価格比較サイト『**価格.com**』と国内最大級旅行ブログサイト『**4Travel**』をグループの対ユーザー向けのゲートウェイの中核に位置づけ、すべての消費者の情報拠点となる事で更なる利用者増を図る
- ② 国内最大級ブログ検索ポータル『**Technorati.jp**』の事業を成長加速させ、そのブログ検索テクノロジーを背景としたブログコンテクトポータル事業の(株)WEB2.0を設立
- ③ モバイルは現在推進中の3Gリッチ・コンテンツ配信事業に加え、『**DGモバイル**』をグループのモバイル展開の中核に位置付け、各種モバイルサービスの推進を図る

<上半期トピックス>

- 05年 7月 **テクノラティジャパン** 日本語版テクノラティ・サイトを正式稼動
- 05年 8月 **テクノラティジャパン** 「衆議院選挙特集」を開設
「ブログで語られている選挙」をリアルタイムで集計・提供開始。マスメディアでも取り上げられ大きな話題に
- 05年 8月 **カカクコム** 「証券カテゴリ」を新設。金融分野における購買支援を本格化
- 05年 9月 **DGモバイル** 公式携帯サイト「白泉社e-コミックス」(女子向けコミックサイト)を共同で新設
- 05年 9月 **カカクコム** 「食べログ.com」にブログ機能を強化
- 05年11月 DG、カカクコム、ぴあ、共同で**株式会社Web2.0**を設立
- 05年11月 **カカクコム** サイトを大幅にリニューアル、リニューアル記念キャンペーンを実施
- 05年12月 **DGモバイル** 石ノ森章太郎の名作コミックを配信する公式携帯サイトを新設
- 06年 2月 **テクノラティジャパン** 検索対象記事数が1億100万を突破。検索対象ブログ数も250万超

本格的成長期へ入ったCGM(消費者作成型メディア)を テクノラティのテクノロジーをベースとした検索とコンテンツWウイング展開



USNo.1のブログ検索エンジンとしての
技術力をベースにした**ブログ検索ポータル**

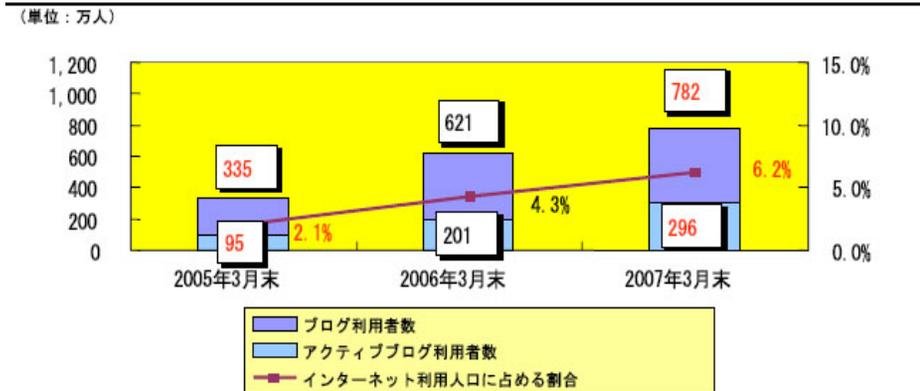
国内ブログの約90%をカバー



ブログと親和性の高いコンテンツを扱う
ぴあ／カカクコムと連動した**ブログメディア**

リッチブログをPick Upし今ブロガーの中で
最もホットな話題を紹介する**ブログマガジン**

<4月開始予定>



(注)「インターネット利用人口に占める割合」は純ブログ利用者数の占める割合。総務省「インターネット利用人口」を使用

ブログ市場は日に日に拡大
しています。

テクノラティの検索カバー率

約90%

Technorati JAPAN

月に1回以上更新するブログ

約250万ブログ

2006/1現在

テクノラティジャパンは日本最大級の
ブログ検索サービスです。

インデックスは250万ブログ、1億記事
を超え、更に増え続けております。

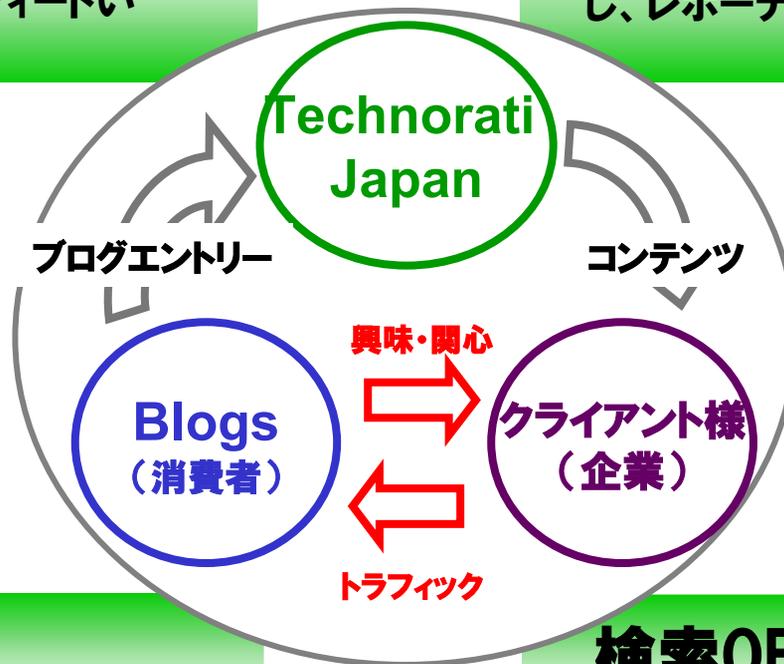
タグ検索をはじめとする新しい検索サー
ビスも提供を開始しています。

コンテンツ配信

自社や競合の商品・サービス・ブランド等についてブロガーの評価を抽出し、サイトにフィードいたします。

リサーチ

自社や競合の商品・サービス・ブランド等についてブロガーの評価を抽出し、レポートいたします。



- ・大手広告代理店
- ・大手自動車メーカー



広告

テクノラティサイト及びブログを媒体とした広告ビジネスを展開します。

検索OEM提供

テクノラティのブログ検索機能を提供します。

＜セグメント事業戦略＞

DGのインキュベーション事業を分社化した、(株)**DG**インキュベーションを中間持ち株会社と位置づけた、より戦略的・機能的インキュベーション事業を展開

DGのインキュベーション事業の分社化による、専門性と創造性・客観性の追及

- ① VTC事業として活動してきた事業を『**3レイヤー**』に分類し、事業成果をより明確に財務諸表に反映する
- ② 独立型VC/日本アジア投資(JAIC)と資本・業務提携し、『**DGニューコンテクストファンド**』を開始、より広いレベルでのインキュベーション事業を戦略的に展開
- ③ グループ各社で、個別に行っている『**M&Aビジネスシード**』の発掘作業を(株)DGインキュベーションでサポート

DG（ホールディングス）の役割

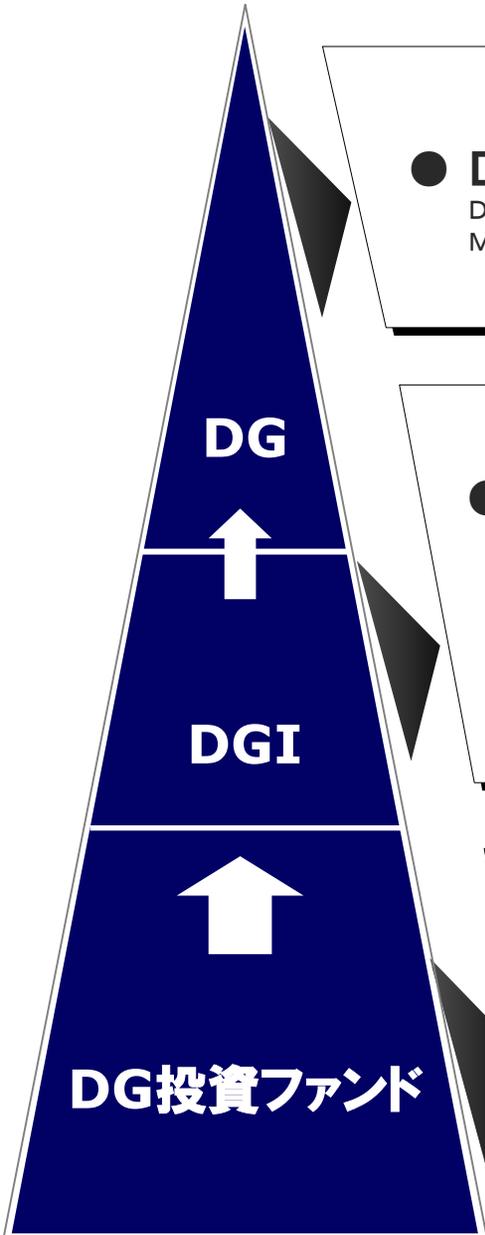
- **DGグループコア企業の戦略的シェアホールディング**
DGグループの事業ポートフォリオを構成する上でのシェアホールディングカンパニー。事業提携、JV、M&AなどIPOを前提としない戦略的出資を行う。

DGインキュベーションの役割

- **連結業績の継続的拡大**
DGグループ連結業績への貢献を目的とした企業の発掘・評価・育成、およびDGHからのマジョリティ投資への橋渡し。
- **キャピタルゲインによる利益実現**
弊社グループ企業とのシナジー、コラボレーションを推進する一方で、計画的な持分売却によって利益実現を目指すマイノリティ投資

DG投資ファンドの役割

- **投資額制限を設け、幅広い投資によるリスク分散**
スタートアップ～レーターステージまでの幅広い投資、インターネット・モバイル関連以外でも早期公開可能性のある企業には積極投資する。
- **ファンド運営による管理報酬、成功報酬の獲得**
有力VCとのパートナーシップにて国内外のネットワーク、投資ノウハウを活用し、ファンド運営報酬および成功報酬を得る。



DG
↑
DGI
↑
DG投資ファンド

＜セグメント事業戦略＞

(株)イーコンテクトを中心に行う「決済ビジネス」に加え、(株)カカコムのトラフィックを活用した「保険」「証券」「金融」等の事業を視野に入れた新セグメントを設定。中長期での成長を目指す

決済ゲートウェイ事業のイーコンテクトと新ファイナンス会社をコアとする新セグメント

- ① 成長軌道にはいった(株)イーコンテクトの「決済事業」をベースとした、
『**ワンストップペイメント機能**』としてのユーザー利便性を追求した新規事業を検討
- ② 『**価格.com**』を入口とした、『**Eファイナンス事業**』の強化
➡ 「(株)カカコム・インシュアランス」「(株)カカコム・フィナンシャル」等の別会社での展開
- ③ グループ戦略事業である『**ブログ/モバイル事業**』を入口としたファイナンスビジネスの検討

Eコマースサイトの決済・物流- イーコンテクト

E・Mコマース事業者等に提供する、CVSを活用した
決済・物流代行プラットフォームサービスの運営
<http://www.econtext.co.jp>

平成18年6月期業績予想 (百万円)

売上高	経常利益	当期利益
2,128	553	636

平成18年2月7日業績予想上方修正発表

事業概況

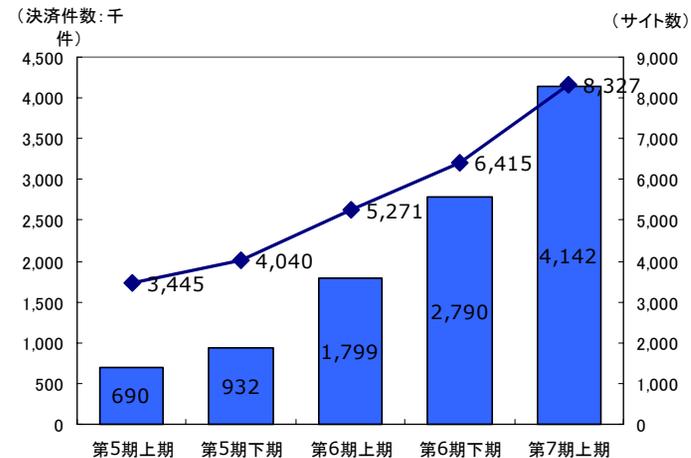
提携サイト数**8,327**サイト

(05/12月 前年同期比3,056サイト増加)

月間平均取扱高**56**億円を越す(06/6期中間期月平均)

- ◆郵便局ATMでの決済が今年4月スタート予定
- ◆サークルKサンクス(6,335店舗)でも決済開始
(平成17年9月開始)
⇒利用可能コンビニ店舗が約**25,000**店に
- ◆主要コンビニでのプリペイドID販売開始(平成17年12月)
マイクロソフトXboxLive
「マイクロソフトポイント」「メンバーシップ」販売開始
- ◆『リネージュII』『ギルド ウォーズ』課金決済手段として
コンビニ決済を3月1日より追加導入

決済件数と提携サイト数推移



3年間の推移

	提携サイト数 (サイト)	決済件数 (千件)	収納金取扱高 (百万円)
05/12月	8,327 (57%)	4,142 (130%)	34,076 (103%)
04/12月	5,271 (53%)	1,799 (160%)	16,757 (102%)
03/12月	3,445	690	8,282

保険のコンサルティングセールス- カカコムインシュアランス

『価格.com』を窓口には保険のコンサルティングセールスを行う。

総合乗合代理店として多数の保険会社の商品を公平・中立な立場で紹介・販売
ライフコンサルタントを抱え、通販のみならず、要望に応じ電話や面談による
コンサルティングをおこない顧客のニーズにあう商品を紹介。

■事業概況

『価格.com』の集客力を利用し順調に申込件数をのばす。

一人当たりの契約獲得数は月15件程度と、通常の保険代理店の5倍近いパフォーマンスを挙げている
契約保険会社は生保13社、損保9社となる(05年12月現在)。

価格.com
Rakaku.com
insurance

外国為替保証金取引サービス- カカコムフィナンシャル

外国為替保証金取引サービス『価格.com 外為』の運営や

カカコムの個人向け金融関連サービスを牽引するため、2005年12月に設立。

個人投資家の急速な台頭を背景に、『価格.com 外為』のサービスおよび
プロモーションの強化により同事業拡大を目指すとともに、『価格.com』へ
金融関連のコンテンツや各種サービス供給を図る。

価格.com
Rakaku.com
financial

外国為替保証金取引なら
価格.com外為
<http://kakaku.com/gaitame/>

<狙い/目的>

グループのITリソースの集約・情報共有化での、現在の「システムの安定性・セキュリティ強化」と、最先端次世代テクノロジーの技術動向をR&Dプロジェクトとして開始

連邦経営視点でのITリソースの集約・共有化を推進

① OSS(オープンソースソフトウェア)プロジェクトへの研究開発投資

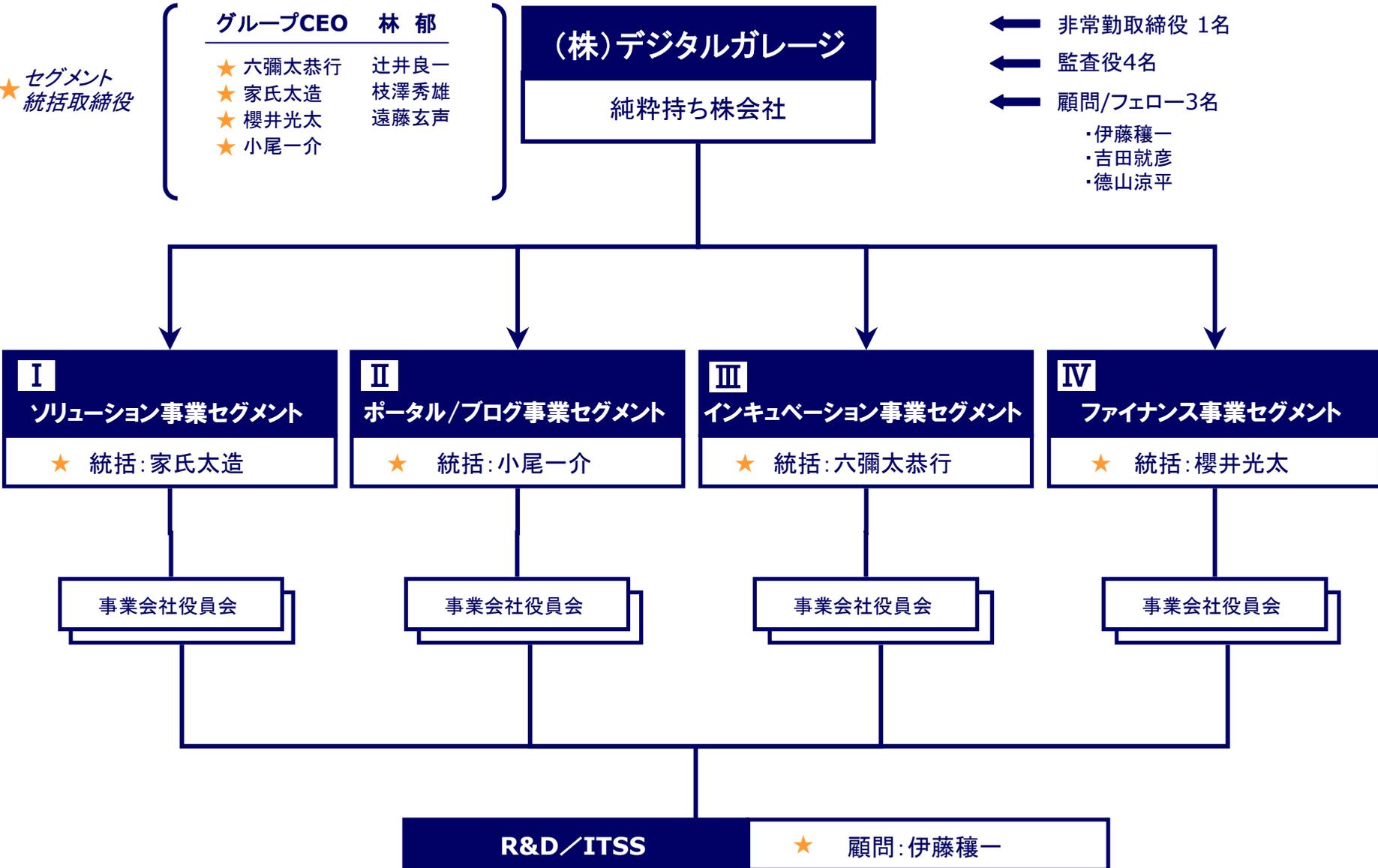
共同創業者・顧問の伊藤穰一をコアとする「**Joi Ito's Lab**」を1月より開始
インターネットの次なるムーブメントの目玉と予想される「オープンソース」に着手

② ITSS(シェアードサービス)体制

グループ視点での社内インフラの安定化とセキュリティ強化

③ グループオフィスの統合

2008年中のグループ・コア会社の集結



<グループシェアードサービスと研究開発>

	売上	経常利益	当期純利益
第11期中間期実績	42.9億円	△2.5億円	△4.3億円
第11期中間期予想	42.2億円	△4.9億円	△6.6億円

※第11期中間期予想は、平成17年8月29日における業績予想

	売上	営業利益	EBITDA
第11期予想 (10期比)	128.2億円 (160%)	17.9億円 (400%)	23.2億円 (310%)
第10期実績	78.4億円	4.4億円	7.4億円

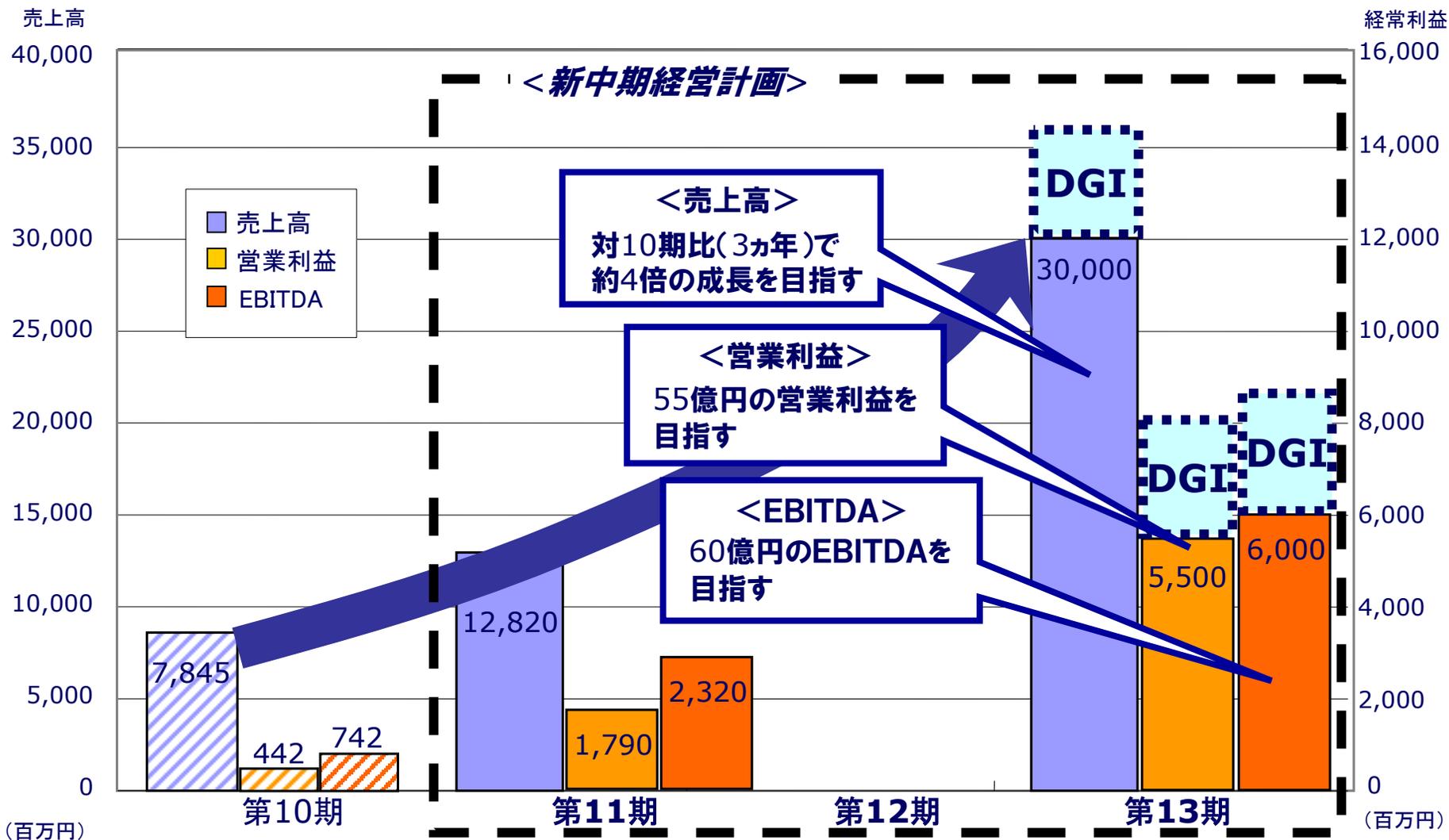
13期に向けての3か年中期計画の目標値設定(インキュベーション事業除く)

	売上	営業利益	EBITDA
第13期	300億円	55億円	60億円

*インキュベーション事業を除く

新中期3ヵ年で、第10期ベースの約4倍の成長と、60億円のEBITDAを目指す

*インキュベーション事業を除く





本資料に記載された今後の見通し・戦略などは、平成18年2月24日現在での弊社の判断であり、
様々な要因の変化により、将来の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご了承ください。